

# 令和7年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

教育基本法にのっとり、全人的教養と社会性の啓培に努めるとともに、「質実剛健」「自主自律」の精神を育成する。

### <育てる生徒像>

志高く、自ら学び、考え、行動する、聡く心豊かでたくましい生徒  
ふるさとに誇りと愛着を持つグローバル・リーダーとして、将来幅広く活躍する生徒

### 教育方針

「質実剛健」「自主自律」の精神のもと、全人教育を基盤とし、生徒の進路実現を着実に図るとともに、次代を担うリーダーとしての素養の伸長に努める。

- (1) 真理を愛し、幅広い知識と教養を身に付け、知性に根ざす豊かな人間性を培う。
- (2) 主体性を持ち、他者と協働する態度や、自他敬愛の念を育てる。
- (3) 心身の調和のとれた成長を図るとともに、よりよい社会生活を築こうとする態度を育てる。
- (4) 個性を伸ばし、自己の確立に努めるとともに、高い志を持ち、進路実現や目標の達成に粘り強く取り組む姿勢を養う。
- (5) ふるさとに誇りと愛着を持ち、グローバルな視野で社会の発展に積極的に寄与するリーダーとしての資質・能力の伸長を図る。

## 2 学校の特徴

本校は、普通科(全学年4学級・160名)と理数科学科・人文社会科学科(全学年2学級・80名)を併設した学級体制である。生徒の多くは、4年制国立大学への進学を希望し進路実現に向けて、学習等に取り組んでいる。

急速なグローバル化やAI・IoT等の技術革新が進展するなか、社会の発展に積極的に寄与するリーダーとして活躍するべく、新たな時代に対応し、未来を切りひらく人間力の育成を目指している。本校は昨年度、文部科学省の「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」の採択校に選ばれた。ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化し、「考え抜く力」「見いだす力」「伝える力」「繋がる力」の伸長を図るとともに、これらの活動や学校行事、部活動、地域貢献活動等をとおして、主体性を持ち、他者と協働して学ぶ態度の育成とバランスのとれた全人教育を行う。

## 3 学校の現状と課題

社会の急速な変化に伴い、学校を取り巻く環境も大きく変化している。「質実剛健」「自主自律」の精神を培い、高い志を持ち、困難な課題にも粘り強く挑戦し、自らの進路を切り拓く心豊かでたくましい生徒を育成する必要がある。そのため、以下6つの観点を重点事項とし、一層の教育充実に努めていきたいと考えている。

- (1) (授業改善の推進) 生徒の学習意欲を高め、優れた能力を引き出すため、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善と指導方法の研究に努める。
- (2) (自学自習の定着) 授業と自学自習のサイクルで、着実に学力の向上を図る。
- (3) (進路意識の向上) 3年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育、進路学習等を行う。
- (4) (多様な支援の充実) 学校外の教育力を有効に活用し、個々の実態に応じた支援に努める。
- (5) (自主活動の充実) 豊かな人間性を培う生徒の主体的な取り組みを促し、支援する。
- (6) (グローバル・リーダーの育成) 社会の発展に寄与するリーダーとしての資質の伸張を図る。

#### 4 学校教育計画

項 目	目標及び計画	
1  学習活動  <b>重点1</b> ① ② ③ ④	目標  計画	<p>学校教育目標・教育方針に即した全人教育をめざし、各教科・科目において、生徒自らが問題意識を持って探究し解決する、主体的な学習態度を育成する。</p> <p>① 高校の学習への円滑な移行と自主的学習習慣の早期確立を促し、主体的な学習活動の実現を支援する。学習手帳等を利用した面談指導等とおして、生徒の生活実態の把握に努める。</p> <p>② 生徒の学習の進め方に即し、3年間を見通した教科ごとのシラバスを作成する。教科部会等とおして<u>指導者が互いに連携し、各学年段階に応じた効果的な指導法の検討を行い、授業改善を図る。</u>また、<u>生徒課題の内容や量、時期について教科間のバランスを調整する。</u></p> <p>③ <u>ICTを活用した文理横断的な探究的な学び</u>を実践する。<u>DXハイスクール事業を活用した外部研修や外部指導者による講座やワークショップ</u>を通して、教員の指導力向上や生徒の深い学びへの到達を図る。</p>
2  進路支援  <b>重点2</b> ① ②	目標  計画	<p>自分の将来の生き方あり方を早期に確立し、その実現に向け生徒個人の持つ適性と能力を十分に伸ばすよう指導する。さらに、コース登録など進路を選択する様々な場面で、適切な情報を提供し、考える機会を持たせることにより自己実現を支援する。</p> <p>① 3年間を見通したキャリア教育に基づき、各時期に応じた進路講演会やキャリアガイダンス講座等を開催し、自己像の確立を支援する。特に、<u>国内外で活躍する社会人の講演や同窓生の体験から学ぶ機会を設け、社会に貢献する自己を想像させ、学ぶ意欲を喚起させる。</u></p> <p>② 「総合的な探究の時間」における進路研究、大学学部学科紹介の実施、<u>大学見学やオープンキャンパスへの参加、面談指導等</u>とおして進路先の選択を支援する。</p> <p>③ <u>模試や入試結果等の情報収集・分析</u>を教員間で共有し、生徒への面接等に生かす。また<u>入試問題等を研究・分析</u>し、効果的な指導方法を確立して、生徒の進路実現への確かな学力を養成する。</p>
3  学校生活  <b>重点3</b> ① ② ③	目標  計画	<p>社会生活を営む上で重要な、規範意識を高めるとともに、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を育成する。さらに、様々な特性や課題を持つ生徒への支援や各種感染症対策等、生徒が健やかに安心して学校生活を送ることができる環境作りに取り組む。</p> <p>① <u>新入生説明会やPTA研修会等で保護者対象の講話</u>や新入生対象の構成的グループエンカウンターを実施し、学校への不適応等の予防的援助を行う。</p> <p>② <u>スクールカウンセリング、事例研修会の実施</u>により、個々に応じた適切な支援を行う。</p> <p>③ 校門指導や集会等により、校則や社会規範の遵守を促す指導を進める。また、<u>人権に関するホームルーム</u>や教育活動全般を通して、人権に配慮できる生徒の育成を推進する。</p> <p>④ 交通事故の予防や交通マナーの改善、危機管理能力の育成に努める。<u>SNSに潜む危険性や利用マナーについての啓発</u>を進める。</p> <p>⑤ <u>生徒保健委員会で「保健だより」を発行</u>し、健康で充実した学校生活を送るための基本的な生活習慣や睡眠の重要性に関する啓発活動を行う。また、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等については、感染状況を踏まえ、適宜、感染予防の啓蒙を行う。</p> <p>⑥ <u>校地内外の環境美化</u>に積極的に取り組み、学校や地域への帰属意識や愛着を深める。</p>

項 目		目標・及び計画	
4	特別活動  重点4 ① ② ③	目標	豊かな人間性と情操の育成及び自主自律の精神、自他敬愛の念と協調的な生活態度の育成を図る。また、読書活動の推進と生徒図書委員会の活性化を図る。
		計画	<p>①部活動への積極的な参加を通して、活動の充実感や目標の達成感を味わわせるとともに、学年の枠を越えた良好な人間関係の確立を図る。</p> <p>②ホームルーム活動を通して、教師と生徒、生徒相互の良好な人間関係を築く。</p> <p>③生徒会活動への積極的な参加を促し、生徒会が関わる学校行事を計画的に運営する能力を高める。また、奉仕精神を涵養するため、ボランティア活動への参加を呼びかける。</p> <p>④推薦図書の見出しなどの広報活動を積極的に行うとともに、図書館に定期的に「特設コーナー」を設け、生徒の読書への意欲を高める。</p> <p>⑤生徒図書委員会による広報活動を活発化し、読書への意欲を高め、来館者の増加を図る。</p> <p>⑥文化講座や読書会の開催、教科・学年と連携した図書館の活用により、自主的に学ぶ態度を育成するとともに、知性に根差した豊かな人間性の啓培に努める。</p>
5	その他  重点5 ① ② ③	目標	新たな時代に対応し未来を切り拓く人間力を育み、ふるさとに誇りと愛着を持つグローバル・リーダーの育成に努める。保護者や同窓会との連携を図る。
		計画	<p>①人文社会科学科・理数科学科及び普通科での探究活動の充実を図り、課題設定力・課題解決力・自己発信力の育成を図る。また、探究活動をとおして協働性を養い、リーダーとしての資質・能力を高めるよう指導の充実を図る。</p> <p>②大学や企業・外部機関との連絡を密にし、また学年や進路指導部等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。</p> <p>③海外大学との研修等を通して、グローバル・リーダーに必要な能力を身に付けさせる。</p> <p>④PTAだより、同窓会報、ホームページ、学校紹介の掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。</p> <p>⑤研修会等について、保護者の意見も反映し、様々な工夫を重ねていく。また、PTAと生徒会の連携を模索する。</p>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 高岡高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自律的で主体的な学習者を育てための学習指導</li> <li>・ I C Tを活用した学習指導</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習習慣が十分に身に付いていない生徒が増えている。</li> <li>・ 生徒たちが中学の段階でどのような指導を受けているか十分把握できていない。</li> <li>・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの教科指導や評価の方法に改善の余地がある。</li> <li>・ D Xハイスクール採択校として、I C Tを活用した文理横断的な探究的な学びを実践、強化することが求められている。</li> </ul>
達成目標	①②学習課題への取組
	③④授業改善や指導力向上 ①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている生徒（1年生） 70%以上 ②中学校の現状把握と指導方法の研究・実践のため、中学校を訪問し、授業見学や教員間の懇談を行う教諭 30%以上 ③外部研修に参加する教諭 80%以上 ④I C Tを活用した外部指導者による講座やワークショップの実施 5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に学習手帳を使用させることで、学習の計画と振り返りを習慣化させる。また、アプリ版の手帳も併用し、教員も容易に実態を確認できるようにする。</li> <li>・ 中学校数校と連絡を取り合い、互いに授業見学を行えるよう交流を深める。得られた指導上の工夫などの情報集約と共有化を行い、学校全体で指導方法の改善に活用する。</li> <li>・ 教員1人1回以上外部研修に参加して情報収集に励み、授業改善に取り組む。</li> <li>・ 特別編成授業期間に、外部指導者による講座やワークショップを行う。その際、D Xハイスクール事業で購入した機材の活用方法を教員が学び習熟に努め、自らの授業で実践する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識の高揚と進路希望の実現</li> <li>・計画的、継続的なキャリア教育や進路指導の推進</li> </ul>	
現 状	<p>高い志を持って学業に取り組む生徒が自身も納得のいく入試結果を手にする姿が多く見られる本校において、自己の能力や可能性を制限することなく、生徒一人一人がそれを大切に、また集団で相互に関わり合いながら伸ばしていく仕組みづくりをしっかりと構築する必要がある。「大学の向こうにある社会」を意識させながら、目標を立てて主体的に自身の進路を切り開いていく姿勢を涵養し、「高岡高校で学んで良かった」と生徒が実感できるような進路支援に全教職員で取り組んでいく。</p>	
達成目標	① 生徒が将来の生き方あり方を考え、主体的に進路学習に取り組む	② 志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)
	1, 2年生のアカデミック・インターンシップ等の校外活動への参加人数を増やす。 (前年度人数 24名)	58%以上
方 策	<p>&lt;生徒対象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や個人面談、外部講師による進路講話、卒業生によるキャリアガイダンス講座、アカデミック・インターンシップなどを通して、将来の進路と高校の学習内容の関連を考察させる。</li> <li>・高い志望を貫いた先輩の体験談や、卒業生による大学学部学科紹介を通して、学習に対する姿勢や、大学での学問を深く知るための動機付けとする。</li> <li>・既卒生に対しても積極的かつ継続的に進路支援を行う。</li> </ul> <p>&lt;教員対象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報を収集・分析し、効果的な指導法や対処すべき課題について教員間で共有する。</li> <li>・大学入試問題研究や進路判定会議等の機会を活かし、より良い進路支援について個々および集団で検討し、教科指導や進路指導につなげる。</li> <li>・学習時間調査結果を分析して生徒の学習への取り組みを把握し、学力の伸長につながる助言指導等を工夫し面接指導に反映させる。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と他者を尊重する態度の涵養と安全意識の育成</li> <li>・生徒の学校生活への円滑な適応と心身の健康保持</li> <li>・学校環境の整備・充実と基本的な感染症対策の徹底</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの普及は、高校生の生活環境を大きく変化させており、本校でもその使用において指導を要するケースが見られる。規範意識を高めることはもちろん、他者を思いやる心を育てる必要がある。また、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みも必要である。</li> <li>・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が年々増加傾向にある。その実態と主たる要因を把握し、時機を失することなく適切な支援を行うとともに、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立や快適な環境を維持することの重要性を生徒は認識しているが、十分には実行できていない。整った環境で規則正しく生活することが、学習効率を向上させ、心豊かな学校生活を送るための基本となることを理解し、健康的な生活をする態度を養う必要がある。</li> </ul>	
達成目標	<p>① 自分と他者を尊重する態度を養うとともに、危険を未然に回避する力を育む</p>	<p>②心身の不調を訴える生徒への適切な対応と職員等の意識の醸成</p> <p>③学校環境の整備充実、感染症予防活動の推進</p>
	<p>① 登校時の校門での挨拶・服装・交通安全指導 年3回</p> <p>「人権に関するHR」 全クラス実施</p> <p>交通事故発生件数 年3件以内</p>	<p>② カウンセリング等 年29回</p> <p>保護者対象講演会 年2回</p> <p>教職員対象研修会 年2回以上</p> <p>生徒対象講演会 年1回</p> <p>③「保健だより」の発行 年9回以上</p> <p>HRにおける啓蒙活動 年2回以上</p> <p>校舎内大掃除や舎外清掃 年9回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を中心に登校時の挨拶指導・服装指導・交通安全の指導を行い、自ら挨拶をしたり、身なりを整えたりすることを意識させるとともに規範遵守の自覚を促す。</li> <li>・「人権に関するHR」や学校教育活動を通じて、人権に配慮できる生徒の育成を推進することで、いじめ防止にもつなげていく。</li> <li>・「ネットトラブル防止等研修会」の実施や集会・HRでの注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、特に心身不調の生徒の理解に努め、スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員と教師、家庭、関係機関との連携を深め、適切な時機に適切な支援を行う。</li> <li>・教職員対象研修会により、生徒や保護者との良好な関係づくり等を学び、生徒や保護者との信頼関係を構築していくという姿勢を醸成する。</li> <li>・「保健だより」の発行やHRを通じて健康で充実した学校生活を送るための基本的な生活習慣や睡眠の重要性について啓蒙活動を行う。感染状況を踏まえ、適宜、感染予防の啓蒙を行う。</li> <li>・校舎内大掃除や舎外清掃を実施するとともに、ゴミの分別を徹底させ、資源の節約や再利用に対する意識の向上に努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と部活動の両立、学校行事やホームルーム活動の充実</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> <li>・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は概ね活発に行われており、上位大会に出場して活躍する生徒もいるが、加入しない生徒、活動実態の少ない生徒、学習を理由に途中退部する生徒が増えてきており、学習と両立した活動が難しくなってきた。</li> <li>・学校行事は、クラス内の交流や団結力を高める良い機会になっている。</li> <li>・各クラスのホームルーム計画に基づき、充実したホームルーム活動が行われている。</li> <li>・学級減等にもなう課題を生徒会執行部と共有しながら、行事の改革に取り組んでいる。</li> <li>・ボランティア活動として学校周辺の清掃奉仕活動、とやまマラソンの運営協力に参加している。</li> <li>・読書への意欲は高いが、学習や部活動等のために時間の制約を受けがちであり、読書量、来館回数ともに生徒による格差が大きいように思われる。知性に根差した豊かな人間性の育成を図るために、日常的に読書に親しむ習慣を育み、普段から図書館へ来館を促進するべく、より一層、教科との連携や推薦図書の拡充、蔵書の充実を進める必要がある。</li> <li>・図書館の利用者をより拡大するため、生徒図書委員会の活動を活発化するとともに、授業やホームルームでの図書館利用を促進して、図書館に対する関心を高めたい。</li> </ul>	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上 ②ホームルーム活動の充実やボランティア活動の推進	③図書館の利用促進
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上 ②ホームルーム活動での討論・ボランティア・読書の実施 ボランティア活動への参加者のべ800名程度	③学期に2回以上の来館者(授業利用以外) 40%以上 ホームルームでの利用 年6回以上 授業での利用 年9回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や学校行事に関するアンケートを実施し、充実度や満足度を調査するとともに、活動実態を把握する。</li> <li>・各種ボランティア活動参加への働きかけを積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の読書欲を喚起するため、「特設コーナー」の設置や推薦図書の掲示など広報活動の活性化を進める。</li> <li>・文化講座と読書会を、合計3回開催する。企画運営には図書委員を積極的に関わらせる。また、図書委員を中心とした図書館でのホームルーム活動を推奨する。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

